

Topic

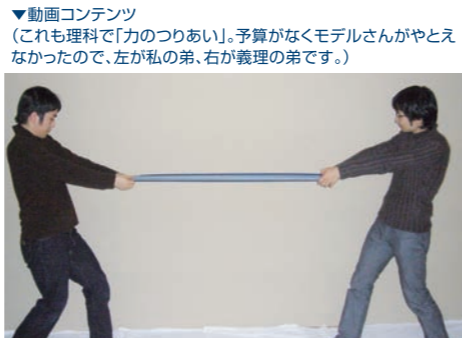
COLUMN: 先生紹介 ▶ 対馬 秀彦 (今福・関目教室)



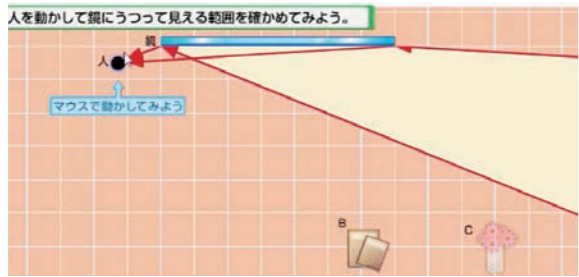
こんにちは。9月より開智総合学院の仲間になっていただきました。対馬です。大学、大学院で情報工学を専攻した後、大手の塾で中学受験の算数を教えたり、大学受験予備校で数学や物理を教えたり、社会人にプログラミングを教えたりしております。その後、大手の教育出版社に移り、全国規模の模擬試験の作成、動画教材の作成の仕事をしました。日本全国の学校をまわり、多くの先生方の授業を見させていただいたり、一緒に教材

を考えたり、たくさんの中学生や高校生と勉強について話をする機会が多くありました。ずっと教育関係の仕事幅広くしてきましたが、その中でわかったことは、どんな年齢でどんな学習内容であっても、勉強の仕方というのはそんなに変わるものではない、ということです。つまり、
 ・一度理解したことを頭に定着させる方法
 ・解き方の丸暗記でなく、なぜそう解くのかを考える習慣
 ・理解できなくなった時に基本にもどる勇氣
 ・勉強の成果が見えず苦しいところでもふんばる力
 などは何歳になっても、何の勉強をしても、共通して役立つということです。まだ期間は短いのですが、開智に来させていた

だくようになって感じたのは、開智の先生方はこの「正しい勉強の方法」を教えることを大切に指導されているということです。目の前のテストの点数を上げること、志望校に合格することを第一に考えながらも、「正しい勉強の方法」を意識している先生方ばかりです。だから幼児から高校生までの幅広い生徒に支持され、合格した後も塾に顔を見せにきてくれる元塾生の方がたくさんいるのだと思います。開智に通っていただいている生徒の方々には、目の前の学習内容の勉強はもちろんですが、「正しい勉強の方法」の勉強もしてほしいと思っております。それは必ず一生の財産となります。これからどうぞよろしくお願いたします。



▼動画コンテンツ
 (これも理科で「力のつりあい」。予算がなくモデルさんがやとえなかったので、左が私の弟、右が義理の弟です。)



▲開発していたゲーム
 (理科で、光の進み方を理解するためのゲームです)



▲予備校時代のパンフレットより
 (10年以上前です、若いですね!)



川西のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE 川西 久志 (今福・古市教室)

珠算競技大会を目指し特訓中! 子供達の可能性は無限大∞

今、私は珠算競技大会に出場する選手の特訓指導を行っている真最中です。今年には特に小学1年生・2年生の中に入門を終了したばかりの9級・8級の生徒が混じっているのが大変です。普段の練習では2桁の読み上げ算が関の山の生徒達に、いきなり億の読み上げ算を

指導していきます。もちろん、まだ、万の位の次が億ということも理解していませんし、何よりこれだけの桁数の数字に触れたこともない子供達です。最初は全く置くことはできませんが、「競技大会で必ず入賞する」という目標の下、厳しくトレーニングを続ける

ことで、競技大会2週間前の今、億の読み上げ算を正解し、2桁5口「35+25+67+48+48+39」などの暗算を5分で、15題から30題まで置ける生徒も出てきました。4年生～6年生は現在、読み上げ算7桁～18桁(100万円～10京)の読み上げ算を猛特訓中ですが、私達講師が読むことでさえ難しい読み上げ算を正解していきます。以前、ソロバン日本一を多数輩出している教室の先生から「生徒を伸ばすために重要なことは、子供の能力を勝手に低く考えないこと。その思いが生徒のレベルを下げてしまう。」と教えられたことがあります。まさに子供達の可能性は無限です。今年の競技大会では、どんなヒーローやヒロインが出てくるのか。それが私の教室から出ることを願いつつ、日々生徒達と練習に励んでいます。

カイチからのお知らせ

- 12月16日(土) はクリスマス会です。時間についてはお知らせを配布します。当日、得点券をお持ちください。
- 12月20日(水)は小学診断テストを実施します。
- 12月20日(水)・21日(木)は中学診断テストを実施します。
- 珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズの年内の授業は12月21日(木)で終了となります。
- 小学部の冬期講習を12月26日(火)～29日(金)、1月5日(金)・6日(土)で実施いたします。
- 中学部の冬期講習を12月22日(火)～29日(金)、1月5日(金)・6日(土)で実施いたします。
- 進研模試を小4生 1月6日(土)9時～10時45分、小5・6生 1月6日(土)9時～11時45分、中3生 13時～17時、中1・2生 18時～22時で実施いたします。
- 1月9日(火)より通常授業がスタートです。珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズはこの日が新年度の授業始めとなります。

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

December 2017
 Vol. 64
 毎月10日発行

【本部】 城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【吉市教室】 城東区吉市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	



高木 秀章 (塾長)

進路懇談会スタート 覚悟を持って最後までやり抜こう!

12月に入り受験もよいよ佳境に入ってきました。今月の上旬からは塾でも私立受験校を決定する三者懇談会がスタートしています。大切な進路を決める時期ですので、ご家庭でも大いに相談し、塾の懇談会が終わっても心配なこと、調べて欲しいことがあれば遠慮なくご連絡ください。この時期の三者懇談会といえば、数年前、私が担当していた生徒の中で、印象的な生徒がいます。彼は志望校を目指し、努力を重ねてきましたが、内申点が足りませんでした。私は12月の三者懇談会で、さすがに挽回は難しいと考え、第一志望を受験できなくとも、彼が求める以上の進学実績や学習環境が揃う高校を調べ、懇談に挑みました。

しかし、私の思惑は大きく外れました。私が受験校を変更した方が良いのではと話すと、彼はうつむき、しばらく黙ったあと、凛とした顔で「それでも、受験させてください」と言いました。私には、その時、彼が全てを飲み込み「やってやる」と覚悟を決めたように見えました。

その後、彼は私が専願で提示した私立高校の最上位クラスに併願で合格、内申点のハンデを本番の得点で跳ね返し、第一志望校に見事合格しました。私はこの仕事に携わり、このような子供達の「本気の覚悟」を何度も見てきました。

覚悟を決めた子供達は強い。それは、今、珠算の競技大会の指導をしていても感じる事です。今までできないと思っていたことを、「やる」「できる」と決めた瞬間から、能力は急激に伸びはじめます。進路懇談では、今の自分と向き合い、将来の自分を見つめ、必ず合格するという「本気の覚悟」を持って受験校決定を行ってください。

そして、本気の覚悟を決めたなら、最後の最後まで絶対諦めないでください。努力を続けている限り、皆さんの成績は受験の直前まで伸び続けます。私立受験校が決定しても、公立の受験校決定は2ヶ月半後です。私立高校も上位クラスで合格する可能性は十分あります。

まだ、勝負は分からない。当然ですが、受験の可否は模試の偏差値ではなく、当日のテストの点数で決定します。そのような意味で、受験の神様は、今までのテスト結果ではなく、諦めなかった人に必ず微笑みます。

大切なことなのでもう一度繰り返します。**入試の可否は模試の結果ではなく、本番のテストの出来・不出来で決定されるのです。**

そのために、受験校の赤本5カ年分を最低4回はしてください。1度解いて丸付けをして間違い直しをする。そして、間違えた単元を問題集で徹底的に復習し、また赤本を一から解くという学習法で2往復します。これにより、弱点単元を克服しながら、受験校の出題傾向を身に付けることができます。

また、この際には、赤本の前半ページに載っている教科単元ごとの出題表を確認し頻出単元を確認しておく、大問ごとの時間配分を決め5分の見直し時間を確保できるように演習する癖をつけておくことで、テスト本番でも落ち着いて問題に取り組み、ケアレスミスを大幅に減らすことができます。

受験では、赤本で受験校の出題傾向と問題傾向、時間配分の対策などの準備を万全にした生徒が合格します。

受験は自分の力で進路を選択できる人生最大のチャンスです。そして、皆さんは今、その岐路に立っています。

諦めず最後までやり抜く覚悟を持つかどうかで、皆さんの将来は大きく変わります。私達も全力でサポートします。春にはみんなで笑えるように最後の最後までがんばりましょう。

今年度のGROWINGはこの号が最後となります。この1年間も反省すべき点がたくさんあり、ご迷惑をおかけすることも多々ございました。「人は人に磨かれる」今年はそのような原点に立ち戻らされたと同時に、可能性の塊のような子供達を指導する責任の重さを深く考えさせられました。まだまだ未熟で何も出来ていない私共ですが、これからも精一杯、努力と工夫を続ける所存でございます。今年1年、本当にありがとうございました。来年も宜しくお願いいたします。



Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

生徒達からの「ハッピーバースデー」に感動 生徒も講師も「最高の自分」を 目指して頑張ります。

福井 幸司 (関目教室)

教室長の福井です。中学2年生標準クラスの教室に入ると、生徒達が手拍子に合わせて「ハッピーバースデー」を歌って迎えてくれました。ちょうど私の誕生日だったので。長年この仕事に携わっていますが、初めての経験でした。ちょっと感動しました。ある中学3年生の生徒からは「〇歳になりましたね」と声をかけられ驚きました。私がカイチに入社し、関目教室に配属されたばかりの頃に、自己紹介として年齢を教えていたようで、それに2歳足したから分かったと言っていました。同じ校舎で長く勤務しているから味わえる喜びです。

今年度の中学3年生は、私がカイチに入社したときには中学1年生でした。そんな彼らが年が明けて数ヵ月経てば入試に挑みます。最初はまだまだ小学生の延長だったのに、今ではたくましく成長し、長時間の勉強に耐える精神力も身に付き、真剣に受験勉強に取り組んでいます。これからますます精神的に厳しい時期を迎えますので、校舎スタッフ一丸となって精一杯支えていきます。

関目教室は若い小幡先生が前面に出て大活躍

をしていただいています。カイチの卒業生であり、関目教室での勤務経験も豊富ですので、年齢に関係なくスタッフ全員が彼らから多くを学んでいます。秋からは新しいスタッフとして、対馬先生が指導に入っています。対応できる科目が多く、生徒達からも頼られる存在となっています。また、井上先生が中3社会を担当するようになりました。中3生徒は遅くまで残り、井上先生に補習をしてもらっています。卒業生でもある村岸先生は、若さを活かして積極的に生徒に声をかけてくれていて、質問対応や帰り際の雑談などで生徒からの人気を集めています。こういう風景を見ると、懐かしさとともに羨ましい気持ちにもなります。カイチ個別は今まで通り網島先生が中心となって頑張っています。今年度は自習室の利用も多くなり、忙しく賑わっています。また平下先生や松尾先生も仕事にすっかり慣れて、よく頑張ってくれています。

関目教室に通っていただいている中学生達はハードなクラブに所属している生徒が多く、勉強との両立が本当に大変そうです。正直、私が彼らの立

場だったらこんなに上手に両立できるだろうか、と思われそうです。個人として尊敬の念を抱きながら彼らの前に立ち、授業を行っています。そういう点で中学1年生はようやく勉強とクラブの両立ができるようになり、授業に落ち着きが出てきました。よく乗り切ってくれたと思います。

珠算部は内海先生と小田先生の指導の下、珠算競技大会に向けて練習を行っています。今回はバスカルと併学して頑張っている小3の女の子が初めて選手に選ばれました。大会に向けて家でも練習していることを嬉しそうに話してくれます。今回のGrowingが配布される頃には大会も終了していますが、関目教室の生徒達がどのような結果になるのか楽しみです。

関目教室の中学3年生のスローガンは「最高の俺を私を見せてやる!」です。中3生徒が入試結果を最高の笑顔で迎えられよう、我々スタッフも「最高の自分」で指導していきます。



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

冬期講習、方法記憶を使って成績アップ! 「わかる」を「できる」に変える勉強法とは?!

小田 忠 (今津教室)

1年は早いもので、今年もあっという間に12月を迎えました。12月は旧暦でいうところの「師走(しわす)」、「師走」という言葉は奈良時代に成立した歴史書、日本書紀の頃から使われており、「師走」の師は「お坊さん、教師、兵隊、御師(お寺や神社の参詣者等を指す)」の意味だそうです。普段は学校で「廊下は走ってはいけません」と言う先生達でさえ、12月になれば、忙しさのあまり廊下を走ってしまう、つまり12月はそれぐらい忙しいということを意味しています。

その師走という言葉の通り、カイチの先生達も「中3の進路懇談の準備」や「冬期講習」「珠算競技大会の準備」「クリスマス会」の準備と大変忙しい時期です。生徒の皆さんや保護者の方々も我々と同じようにきつと忙しくされていることと思います。

カイチでは今年も冬期講習会を実施します。今回の冬期講習、小学生は集団指導とフリーラーニングシステムによる個別弱点对策方式。小6生は本格的に英語の指導を行っていきます。中1・2生は実力をつける上で積み上げが必要な教科「英語」「国語」「数学」の前学期、前学年の総復習を行います。受験直前の中3生は私立の入試問題を使用して、問題演習と解説を行い、答案作成力を身に付けていきます。

ところで、皆さんが冬期講習を受講する上で大事なことは何でしょう。それはたった一つ。「勉強をできるまでです」ということです。

勉強が「できる」と言うことは、「誰の手も借りず一人で問題を解くことができる」ということです。普段の皆さんの学習態度を見ていて、成績がいい生徒にとって「できる」という状態まで持っていくことは当然のこと。しかし、成績が芳しくない生徒は「わかる」という状態で満足してしまっ、「できる」という状態まで持っていこうとしません。(授業中に先生の言っていることはわかる。理解できる、わかりやすく言えば納得できるということです。)では、「わかる」を「できる」という状態にするにはどうすればよいのでしょうか。

その答えは単純。「できる」ようになるまで、**何度も繰り返し勉強すること**です。

できるまで繰り返すなんて邪魔くさいと思うかも知れません。しかし、元来勉強とは手間暇のか

かるものです。今回の冬期講習では、皆さんにできるまで反復してもらうために、授業毎に前回の授業内容の小テストを行います。小テストで不合格の生徒は合格するまで再テストを実施します。

この時、気をつけて欲しいことが「丸暗記しない」ということです。正確な言い方をすると、「**なぜそうなるのか、その理由を理解した上で暗記する**」ことが重要です。

理由を理解して覚えることは、丸暗記に比べ、関係性の中で記憶するため、記憶が強化され忘れにくいということも当然ありますが、理解し、その理由を暗記することで、その物事の「**理解の仕方**」を同時に覚えることができます。これは、脳科学の世界では方法記憶と呼ばれますが、理解の仕方を覚え、そのバリエーションを増やすことで、理解力が飛躍的に高まり、勉強の効率そのもの

が向上します。

「わかる」ではなく「できる」まで徹底的にやり抜く。その時にはなぜそうなるのか、その理由も併せて覚えるようにする。冬期講習ではこのことに意識して取り組んで欲しいと思います。

クリスマスにお正月。皆さんにとって、楽しさ満載の冬休みにせつかく勉強するのですから、しっかりと授業内容を身に付け、3学期以降の飛躍につながる冬期講習にしたいものです。

